

日本では、「近江八景」

をはじめ、その地を代

表する好風景を「○○

△景」と呼び称し。特

別な思いを寄せてき

た。郡内でも、各町や

村にその種の場所や景

観があったようである

が、今日ほとんど忘れ

去られてしまってい

る。そこで今回、福住

清風が選定した江戸時

代末期頃の（下）伊那

の勝地十五カ所を紹介

しよう。出典は前にも

引用した羽生永明稿著

『南信文学』である。

選定者の福住清風

（二六七八〜一八四八）

は、長瀬五郎右衛門の

四男として生まれた、

長じて飯田の町年寄を

勤めた福住家の養嗣子

となった人である。最

初俳句や書を学び、後、

飯田に來遊した尾張の

植松茂岳について和歌

を習い名を得た。

かの千葉葛野と同時

福住清風選の

「伊那十五景」

鎌倉貞男

に番号を附してあげて

みよう。括弧書きで示

したのは、今日予想で

きるその場所である。

1 遠山春望（赤石山

脈の春望か）

2 弥高社櫻（市内

鼎の弥高神社の桜）

3 茶白山霞（茶白山

の霞）

9 萱垣山紅葉（萱垣

山の紅葉）

10 風越時雨（市内風

越山の時雨）

11 八幡原雪（市内八

幡原の雪）

12 松川千鳥（市内松

川の千鳥）

13 法蔵寺鐘（市内鼎

の法蔵寺の鐘）

14 運松寺松原（市内

鼎の運松寺の松原）

15 伊久間道行人（喬

木村伊久間の行人）

見る通り、あげられ

た場所は、飯田を中心

とした郡内の山河や寺

社である。その様子や

景観は題から推測いた

だこう。仮に今の人が

選んだならば、おおよそ

選びそうもない場所が

多く入っっていておもし

ろい。ここから、今よ

り百五十年以上昔の人

の生活や美意識が感じ

られる。

実はこの十五景には、

和歌が一首ずつ添えら

れている。四季それぞ

れ三〜四景（三〜四首）

といったところであ

る。紙面の都合上全て

を紹介できないから、

各季一首ずつを次に記

すので、清風の古歌を

鑑賞してみたい。

春（遠山春望）

夕暮れの眺めは何時

となけれどもたえだえ

霞む春の山の端^は

夏（眞呂山子規）

軒近きは山を出でて

ほととぎす花の跡とふ^さ

けさの初声

秋（園原落月）

ははき木の老いぬる

かげを嘆く間に月も傾

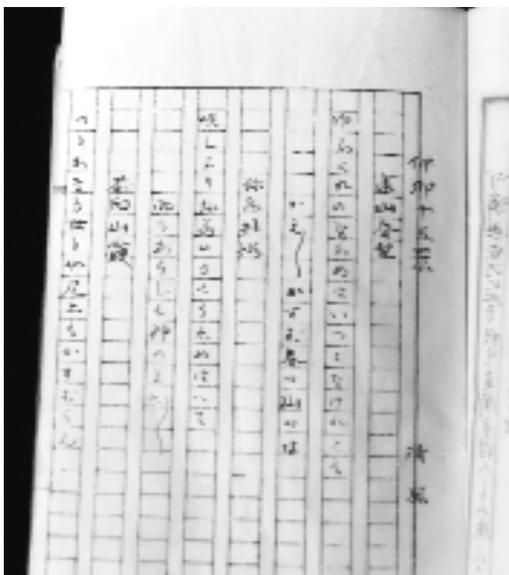
ぶく園原の山

冬（運松寺松原）

時雨^{しぐ}れても時雨れぬ

色や世の中の世の常な

らぬ松のひとむら



「伊那十五景」